

2008.9.21「保護者懇談会」理事長挨拶

保護者の皆様へ

理事長 安部 直樹

本日は9月21日。清風明月を払うという言葉に秋満開の香りを感じます。

本学の“保護者懇談会”によるこそお越し頂きました。遠方は北海道や沖縄からまさに御家族のお子様への関心の高さが感じられます。

さて、長崎国際大学の経営母体であります学校法人九州文化学園は、昭和20年12月15日に創立されました。戦後の興廃した、食べるものも無い、着るものも無いという貧しさの中で、これからの祖国の復興は教育しかないという創立者の熱い思いでの出発でありました。現在は、幼稚園、高等学校、専修学校、短期大学、大学、大学院を有する総合学園となり、社会福祉法人に、保育園、特別養護老人ホーム、養護老人ホームを持っています。

大学は平成12年に県、市、企業の多大なる支援を頂いて発足した“公私協力型”の大学です。戦後の動乱の中で発足した学園は、建学の理念の中に「高い知性と豊かな教養、たくましい意志と健康な体、人としての香り高い品格と徳性」をあげています。しっかり勉強に励み、苦しい事、辛い事に負けない強い意志力、更には人としての美しさ、優雅さを持つ人間性の陶冶であります。

その実践教育として、本学は“茶道教育”を教育理念の中心においています。茶道の精神は“和敬清寂”礼節を持って相手に尽くし、尊敬の気持ちで人と対座し、常に清らかな心で汚れの無い境地を目指し、自分を律し、自己の鍛錬を行うことを茶道教育より学び取って欲しいと願っています。

本大学は未来に向けた専門的知識、技術、資格等を伝えていく知の部分と、人が人として持つべき常識や礼法を伝えていくべき教養の部分とを有しています。その為に、一人一人の学生を大切に、教員と職員が一生懸命学生に真正面より向き合った姿勢を最大の特徴としています。

どうぞこの一日、大学を理解し、学生の大学生活を理解し、更に時間をお作り頂き、茶室“自明堂”にて一服の茶をお楽しみ下さい。本日が意義ある懇談会でありますことを心より期待し、御挨拶にかえさせていただきます。

2008. 9. 21. 「保護者懇談会」学長挨拶

保護者の皆様へ

学長 和田光史

本日は長崎国際大学「保護者懇談会」を開催いたしましたところ、保護者の皆様には、ご多忙の中、遠方を含め、多数のご参加を頂き、まことに有難うございます。今日の社会では、教育に果たす家庭の役割は益々重要になり、大学教育につきましても保護者の皆様のご関心、ご理解、さらにはご支援が大きな意味をもつようになっております。「保護者懇談会」への皆様のご参加 教職員にとりましては心強い限りで重ねて御礼を申し上げます。

この会は、一昨年、昨年に引き続き、3回目のもので、本学の教育とご子弟の勉学状況について理解を深めて頂くとともに、皆様のご意向を伺いたく計画いたしました。この全体会の後には、国際観光、社会福祉、健康栄養、薬学と各学科別にお集まり頂き、授業の履修、学生生活、卒業後の就職・進路などについての説明を申し上げ、教員あるいは職員との個別面談を行って頂くことにしております。この会が成果を挙げることができるよう、ご参加の皆様には、お配りした資料集にもお目通しいただき、ご質問とご意見などよろしくお願い申し上げます。

近年わが国では大学への進学希望が増大し、本年の大学進学率は過去最高の49.1%と50%に迫り、高校卒の2人に1人が大学に進む状況になっております。このように多くの学生が大学に進むことは、教育本来の趣旨からは好ましいことですが、一方では、少子化が進む中での進学率の上昇は大学の教育にいろいろの問題を引き起こしていることも事実であります。とくに進学してくる学生の多様化は一番の問題で、それぞれの大学で、学力、目的意識、学習意欲、学習習慣などが異なる学生を受け入れ、どのように大学の特徴を生かして、よく育て、社会に送り出すかが重要な課題となっております。

本学では、この課題を念頭に置いて、2000年の開学以来 専門的知識と技能に加えて、知性、感性、人間性の備わった学生を育てる教育を進めてまいりました。このうち、社会に出てからの仕事選びに直結する専門教育では、ご子弟が学んでいる国際観光、社会福祉、健康栄養、薬学という専門はいずれも21世紀に重要性が高まる活動分野として選ばれたものであり、カリキュラムを工夫し、教員の陣容を整え、教育内容の充実を図ってきました。入学した学生は授業、演習、実習に熱心に取り組むことによって、各自の持ち味と希望を生かせる対象を見出し、学んだことを卒業後の社会での仕事に生かせることができると信じております。授業については、学生による授業評価アンケートを実施し、その結果と学生の意見・希望を担当教員が点検・評価して、授業の内容と方法の改善に努めております。

専門教育とともに大学教育で重要な地位を占めるのは教養教育で、本学では、全学共通の「人間理解」「国際理解」「社会理解」「自然理解」の四つの科目群を設けて実施しています。このうち、「人間理解」に入る茶道文化の授業は資料集でもご覧頂けるように、本学教養教育の特色の一つで、選択科目であります。学生の人気も高く、多くの学生が授業に参加しています。また、入学してくる学生の多様化に対応するには、入学後に行う大学での学習に必要な基礎能力・技術を取得し、目的意識や学習意欲を高めて専門教育への導入を図る導入教育が重要になります。本学では、小人数方式で一年を通して、クラスを編成し、担当教員を定めて行う「教養セミナー」を全学共通の必修の授業科目として1年次に実施し、効果を挙げつつあります。本日もご面談頂く先生方は、この教養セミナー、あるいはこれに続く専門演習（ゼミナール）などをご担当の先生方です。

さらに、今日の大学には社会の変化に対応してその要請に応える教育が求められ、学生の進路決定と就職を支援するキャリア教育が重要になり、本学でも取り組みに力を入れています。しかし、残念ながらこのキャリア教育は教職員期待のように十分には進んでいないのが実情であります。その最大の原因は、多くの学生の進路決定と就職に対する意欲、目的意識が十分でないことにあります。この機会に 保護者の皆様にも、ご子弟の進路決定と就職についてのご配慮、ご支援をお願い申し上げます。

現在、機能的な校舎での快適な勉学環境、加えて地域社会の温かいご支援の中で、学部と大学院を合わせて1600名に近い学生が、それぞれに充実した大学生活を送っています。ハウステンボスは憩いのキャンパスとして、また、学生には実習、アルバイト先として社会訓練の機会も提供して頂いています。

本学で学業を終えた学生は毎年90%を超える、あるいはこれに近い就職率で社会に受け入れられ、あるいは、他大学の大学院を含めた大学院に進学しています。さらに、資料集でご覧頂けるように、スポーツ、文化、ボランティア、国際交流活動なども順調に育って、目に見える成果を挙げる様になっており、卒業生アンケートは、本学での学習・生活に対する満足度は高く、多様化する学生に少しでもよい教育をと努力している教職員には嬉しい結果となっています。

大学は、そこで学ぶ学生一人ひとりが、人間としての生き方を自分で選びとる、また、人生の伸び盛りの貴重な時間を過ごす大切な場です。その大切な大学に、長崎国際大学を選んで下さったご子弟と保護者の皆様の期待に応えることができるように、教職員一同、本学のモットー「いつも、人から。そして、心から。」を心がけ、今後とも精一杯の努力をしてまいります。保護者の皆様には、ご子弟の大学での学び、社会への巣立ちが円滑に進むように、益々のご支援を賜りますことをお願い申し上げます。ご挨拶を終わります。有難うございました。